

第6次塩竈市長期総合計画

序論・基本構想（素案）



令和2年11月

<目次>

I 序論	4
1 計画策定の目的	4
1) 計画策定の趣旨.....	4
2) 計画の位置づけと役割.....	4
2 計画の構成	5
1) 基本構想.....	5
2) 基本計画.....	5
3) 実施計画.....	5
3 本市の特性	6
1) 人口の動向.....	6
2) 就業人口と事業所数等の推移.....	11
4. 主な時代の潮流	12
1) 人口減少・少子高齢化社会の深刻化.....	12
2) 地方創生の推進.....	12
3) 情報化・デジタル化の進展.....	12
4) 地球環境問題の深刻化.....	13
5) S D G s（持続可能な開発目標）の取組推進.....	13
5 まちづくりに関する市民・事業者の意見集約の取組	14
6 まちづくりの課題	16
1) 人口減少・超高齢社会進展への対応.....	16
2) 暮らしの豊かさや幸せを実感できるまちの魅力度の向上.....	16
3) 地域の個性を十分に活用した産業振興.....	16
4) 新たな危機への対応.....	16
7 まちづくりの視点	17
8 まちづくりの手法	17
1) 多様な担い手による協働・共創のまちづくりの推進.....	17
2) 社会情勢の変化にも柔軟に対応できるまちづくりの推進.....	17

Ⅱ 基本構想	18
1 計画期間.....	18
2 目指す都市像.....	18
3 まちづくりの基本理念.....	18
4 将来人口について.....	19
5 わたしたちが目指す10年後のまちのすがた.....	20
1) 子どもたちの笑い声があふれるまち.....	21
2) みんなが生き生きしているまち.....	22
3) 快適で住み続けたいと思うまち.....	23
4) 活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち.....	24
5) 何度でも訪れたいと思うまち.....	25
6) 日常に彩りがあるまち.....	26
7) みんなが主役になれるまち.....	27
8) 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま.....	28
6 「都市像」の実現に向けて.....	29
Ⅲ 資料編	30
1 今後のまちづくりに向けた市民・事業者の意向.....	30
1) 長期総合計画審議会.....	30
2) 市民まちづくりワークショップ.....	31
3) 市民アンケート結果の概要.....	32
4) 企業アンケート結果の概要.....	37
(1) 今後の企業活動において関心のある項目.....	37
(2) 行政が取り組むべき分野.....	38
5) 事業者ヒアリング.....	39
2 本市が抱える重点課題の解決に向けた取組.....	40
1) 重点課題について.....	40
2) 重点課題ごとの検討内容について.....	40

I 序論

I 計画策定の目的

1) 計画策定の趣旨

本市では、これまで平成 23 年度を初年度とした「第 5 次長期総合計画」と東日本大震災からの早期の復旧・復興を目指す「塩竈市震災復興計画」との両輪でまちづくりを進めてきました。

第 5 次長期総合計画は令和 2 年度までの 10 年間の計画でしたが、世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の拡大により本計画の策定にも影響が生じたため、計画期間を 1 年間延長しました。

前計画の策定から 11 年が経過し、本市を取り巻く社会情勢は、本格的な人口減少・少子高齢化社会への突入、東日本大震災などの大規模災害や新型コロナウイルス感染症などの新たな危機への不安の高まり、経済・社会のグローバル化や技術革新の急速な進展など、あらゆる面で大きな変革期を迎えています。

このような時代の潮流に的確に対応し、本市が将来に向けて持続可能なまちづくりを進めていくためには、人口減少や少子高齢化の進行、多様な生き方や暮らし方の広がりをはじめとした様々な課題に対し、行政だけでなく市民の方々や塩竈と関わりのある方々と共に考え、行動していくことが求められます。

「未来の塩竈の創造」に向けて、その姿を市民の皆さまや関わりのある方々とともに描き、魅力ある多彩な個性を皆さんの手をつなぎ合わせ、未来へ続くまちを創り上げていくことを目指し、「第 6 次長期総合計画」を策定するものです。

2) 計画の位置づけと役割

本計画では、本市の目指す都市像と、それを実現するための基本的施策を総合的かつ体系的に示しています。今後 10 年間の市政運営の指針となるものであり、行政計画における最上位の計画となります。

同時に本計画は、将来のまちづくりの方向性を示すものであり、市はもとより市民・事業者など地域の多様な担い手が役割を分担し、共に目指すまちを創り上げていくための指針となります。

2 計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」で構成します。

1) 基本構想

基本構想は、社会情勢や地域特性、市民の声、本市が抱える課題等を踏まえつつ、これからの10年間で目指す都市像やまちづくりの基本理念を示すとともに、その実現に向けたまちづくりの方向性を定めるものです。

2) 基本計画

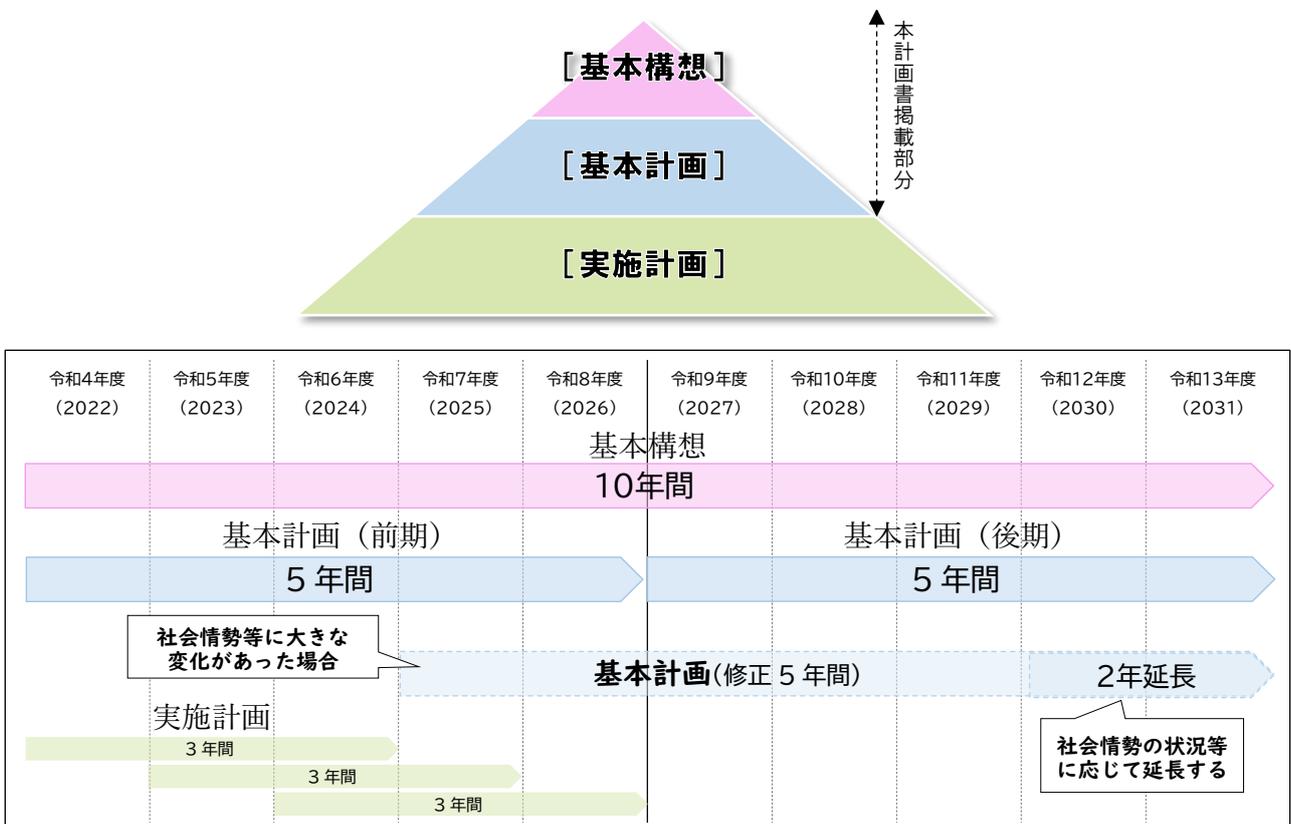
基本計画は、基本構想で定めた「目指すまちのすがた」の実現に向け、分野別の主要な施策を示すものであり、計画期間を前期5年・後期5年に分割し策定します。

なお、社会情勢等に大きな変化があった場合にも対応できるよう、施策などを見直した修正計画を策定することも想定しています。

3) 実施計画

実施計画は、基本計画で定めた施策を具体的な事業として実施していくための計画です。財政計画などの諸計画と連動させ、その実現性を高めます。期間は3か年で、毎年度必要な調整、見直しを行います。

図1 総合計画の構成・期間



3 本市の特性

1) 人口の動向

(1) 人口と高齢化率の推移

本市の人口動向を見ると、総人口は平成7年の約6万4千人をピークに減少傾向に転じ、平成27年では約5万4千人と20年間で約1万人減少しています。

年少人口の減少と老年人口の増加により、平成12年には老年人口が年少人口を上回り、市を支えていく生産年齢人口も平成7年を境として顕著に減少しています。

図2 人口と高齢化率の推移

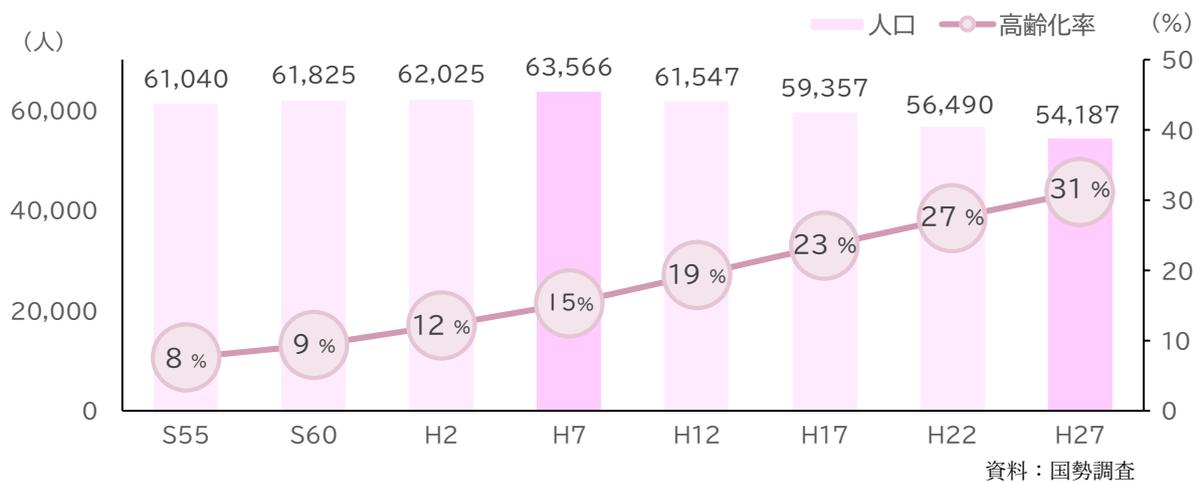
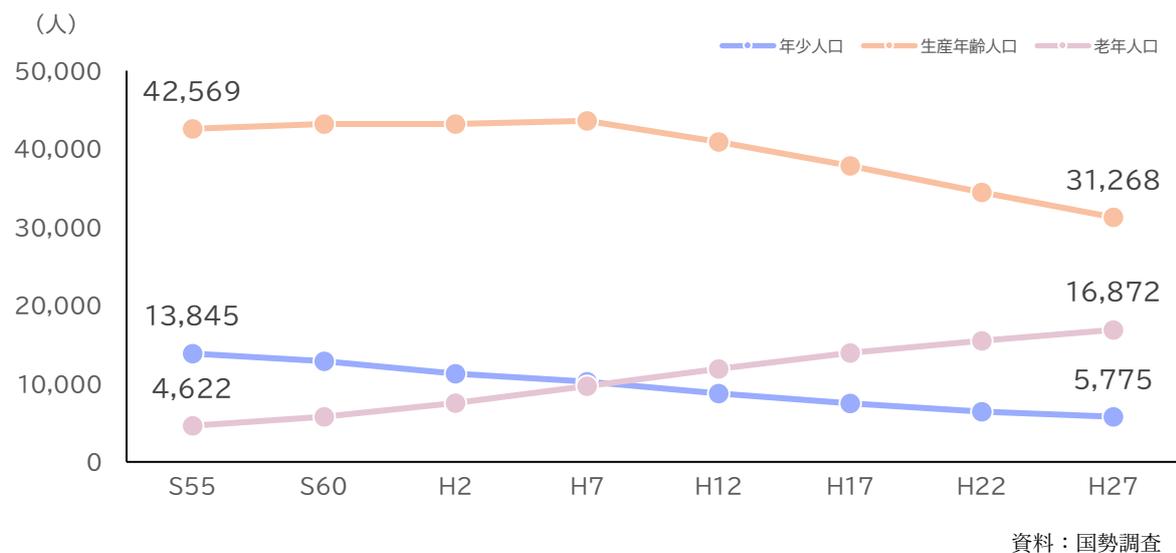
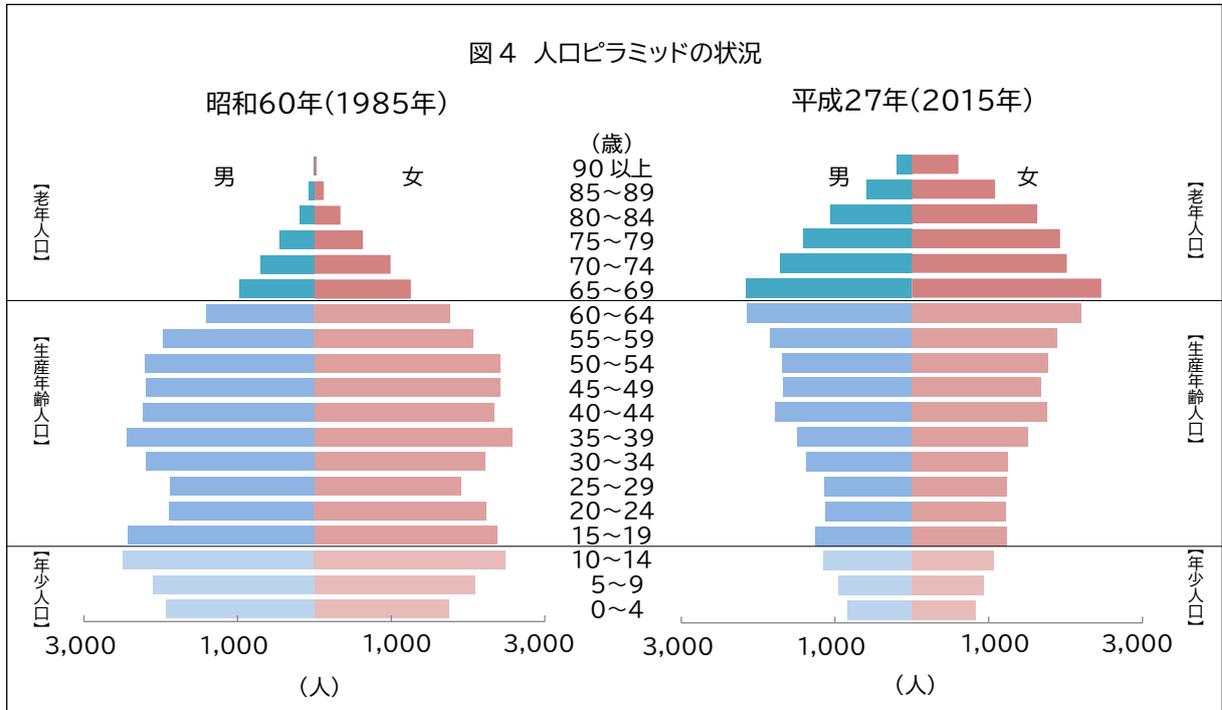


図3 年齢階層別人口の推移



(2) 人口ピラミッドの状況

人口ピラミッドの推移をみると、昭和60年には年少人口が多く、老年人口（65歳以上）が少ない状態でしたが、平成27年には生産年齢人口の減少が進むとともに、年少人口よりも老年人口が多い状況に変化しています。

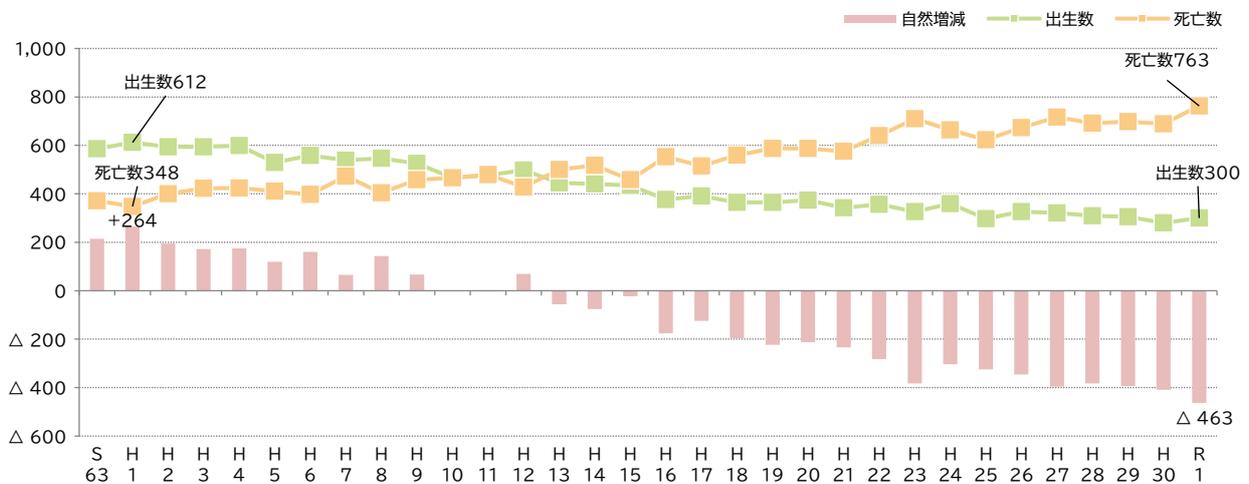


(3) 人口移動の推移

① 自然増減の推移（出生、死亡の推移）

平成9年まで自然増の状態が続いていましたが、高齢化の進行に伴う死亡者の増加と若年層の減少に伴う出生者数の低下により、平成11年に初めて死亡数が出生数を上回る自然減となり、平成13年以降その傾向が続いています。

図5 自然増減の推移

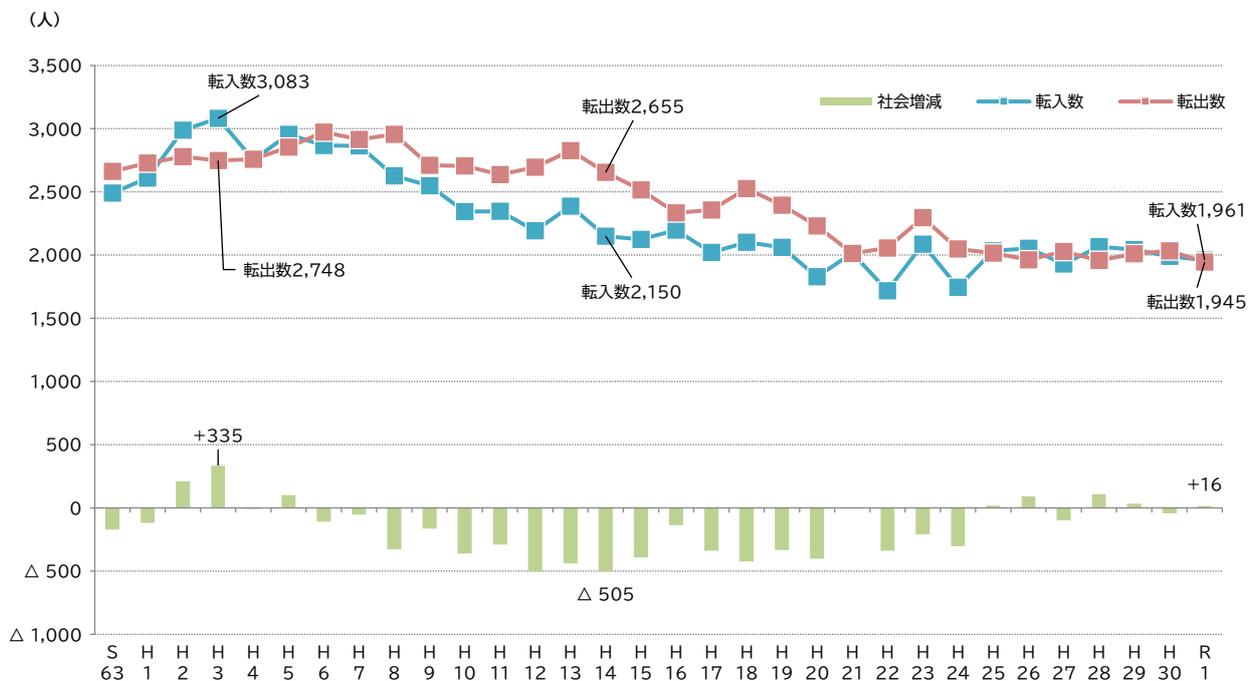


資料：住民基本台帳

②社会増減の推移（転入、転出の推移）

他自治体との間の人口移動については、平成6年以降は、転入者数・転出者数ともに減少傾向にある中で、より転入者数の減少が大きく、転出超過（社会減）の状態が続いていましたが、平成25年からは微増傾向に転じ、近年はほぼ横ばいとなっています。

図6 社会増減の推移



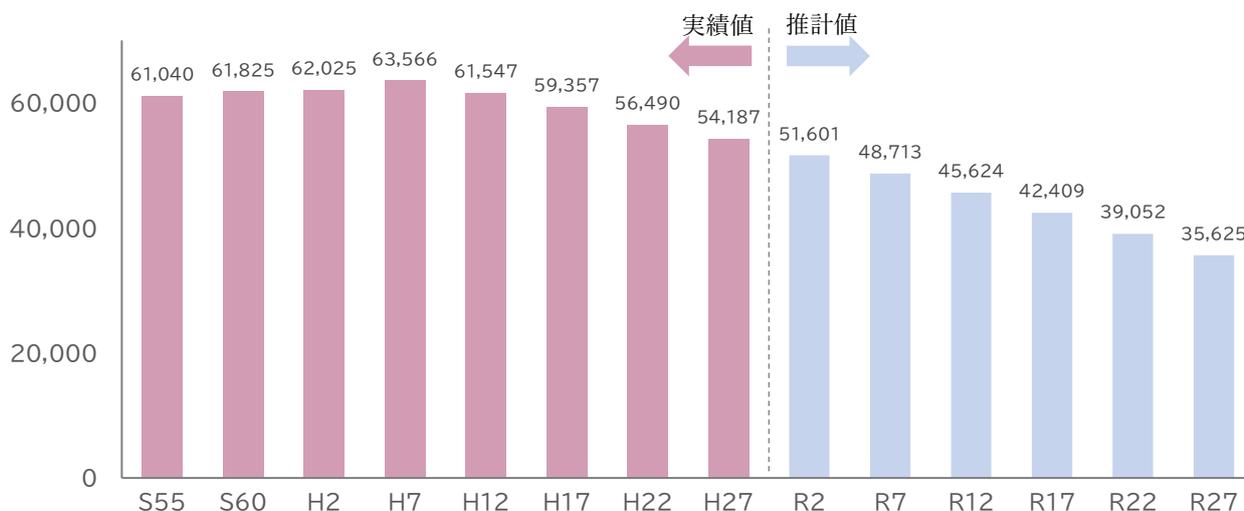
資料：住民基本台帳

(4) 将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成 27 年の国勢調査を基に、平成 30 年に推計した「日本の地域別将来推計人口」によると、令和 7 年には 5 万人を下回り、令和 22 年には 4 万人を下回ると推計されております。（図 7）

その状況下で、年少人口比率及(図 8)及び生産年齢人口比率(図 9)は他市より低いままさらに減少が進み、老年人口比率(図 10)は他市より高い状態で上昇していくため、本市の少子高齢化は際立って進行していくといえます。

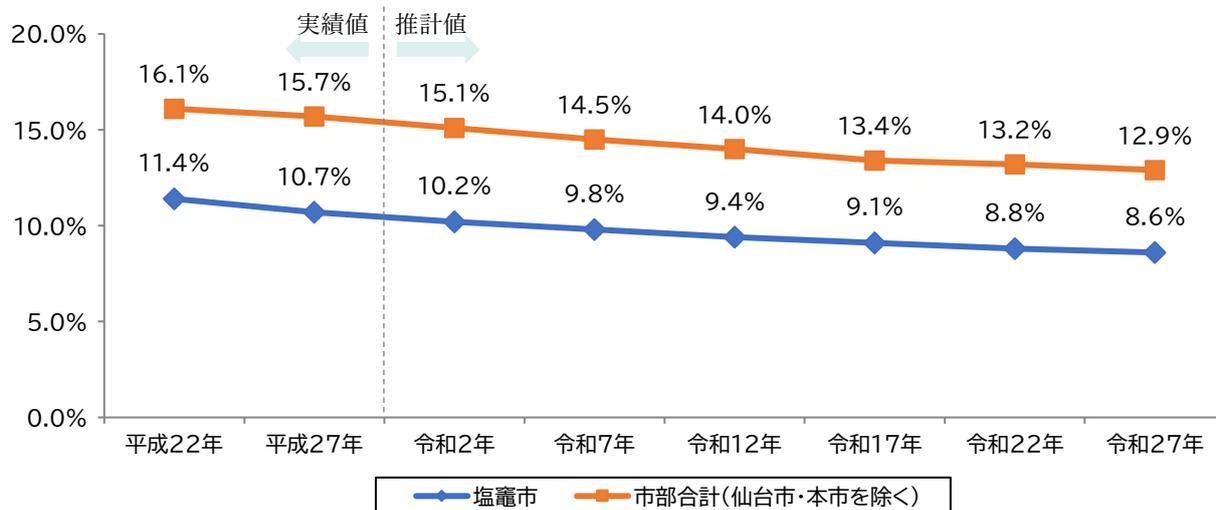
図 7 将来人口の推計



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

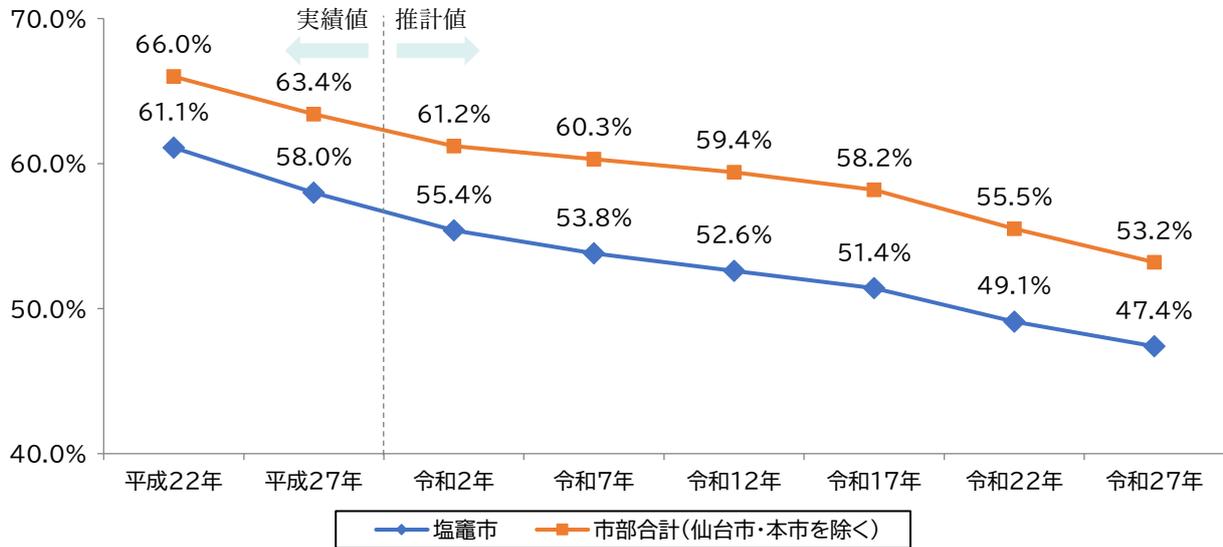
図 8 年少人口比率の推移

【仙台都市圏市部(多賀城市, 名取市, 岩沼市, 富谷市)合計との比較】



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

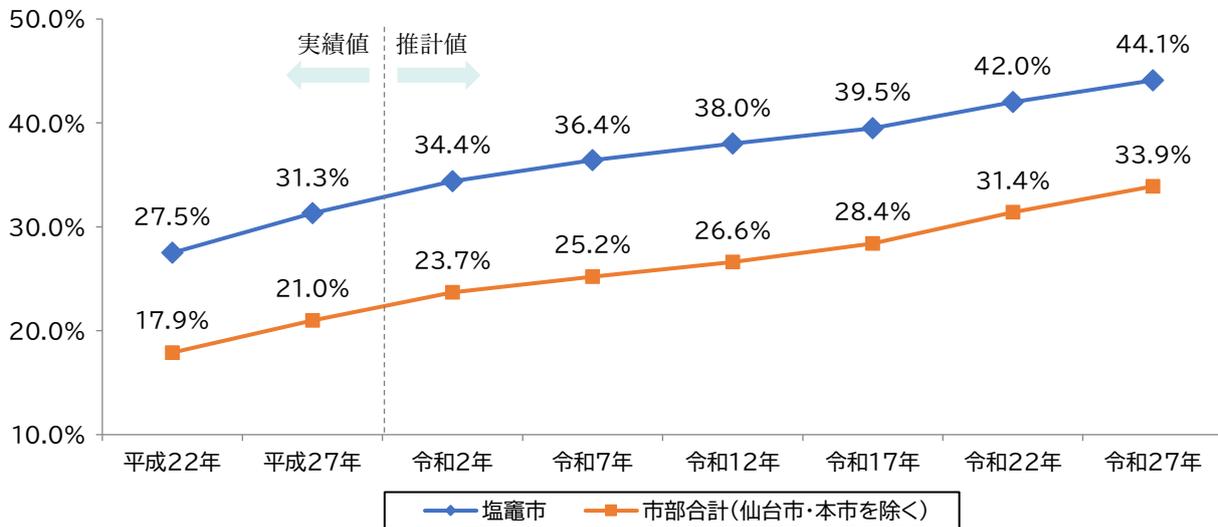
図9 生産年齢人口の推移



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

図10 高齢化率の推移

【仙台都市圏市部(多賀城市, 名取市, 岩沼市, 富谷市)合計との比較】



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

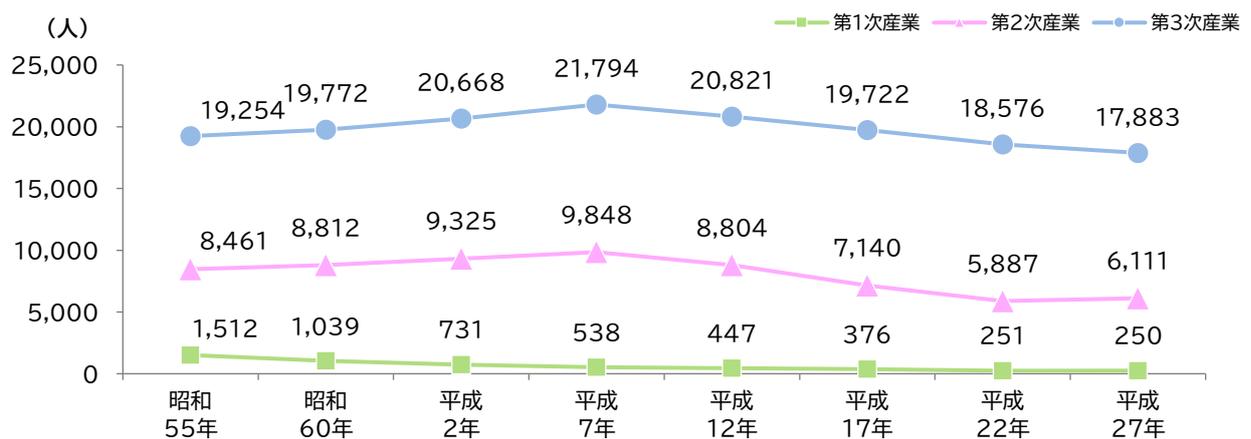
2) 就業人口と事業所数等の推移

(1) 産業別就業人口の推移

産業別人口をみると、第1次産業の減少が続いており、平成27年には昭和55年からの30年間で約1/6となり、その後は横ばいで推移しています。

第2次産業及び第3次産業は平成7年まで増加傾向にありましたが、それをピークに減少に転じております。

図11 産業別就業人口の推移



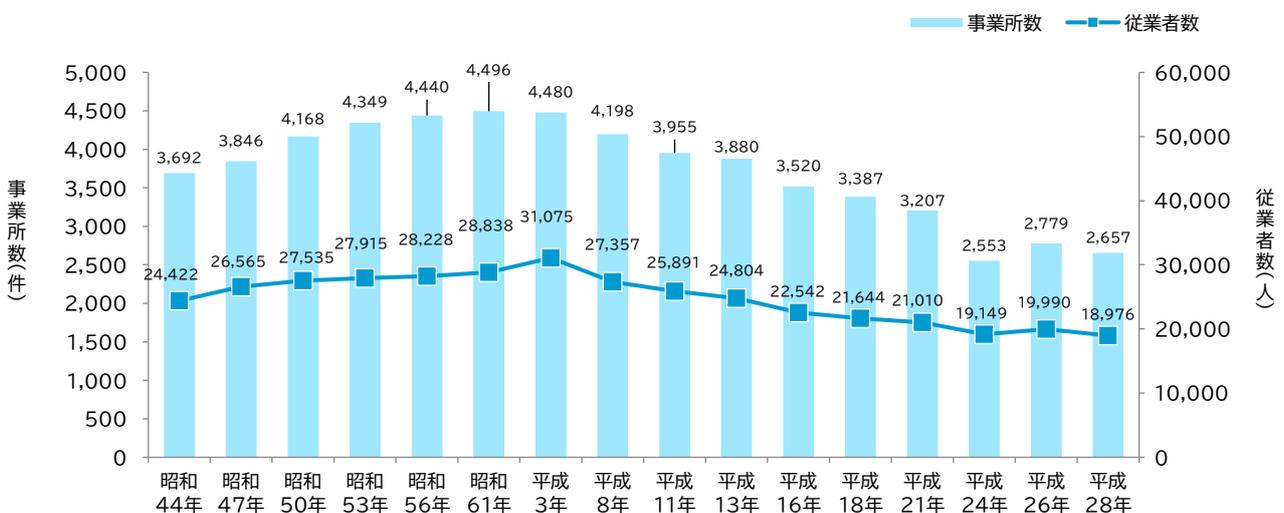
資料：国勢調査

(2) 民営事業所数と従業者数の推移

事業所・従業者数は、平成28年において、それぞれピーク時と比較し、1,839事業所、従業者数は12,099人の減少となっています。

就業者人口では、塩竈市に常住・従業している就業者が大きく減少しています。

図12 民間事業所数と従業者数の推移



資料：経済センサス等

4. 主な時代の潮流

1) 人口減少・少子高齢化社会の深刻化

今後、人口減少と高齢化、少子化はますます進むことが見込まれ、社会保障費の増加や医療・介護サービス等の需要の急激な増大が懸念されています。

また、人口構造が変化することにより、財政圧迫や地域経済の衰退など経済面の影響とともに、高齢者の孤立や貧困、地域コミュニティの弱体化など、市民の暮らしへの影響は避けられず、地域社会全体の衰退を招く恐れがあります。

2) 地方創生の推進

平成 26 年 11 月に可決・成立した「まち・ひと・しごと創生法」の基本理念に基づいて、国が策定した「長期ビジョン」と「総合戦略」を踏まえながら、本市でも平成 28 年 3 月に「塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

また、国は、「関係人口の創出・拡大」や「SDGs を原動力とした地方創生」、「Society5.0 の実現に向けた技術の活用」などの新たな視点を盛り込んだ第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和元年 12 月 20 日に閣議決定しました。

このことを受け、本市では「総合戦略」を改訂するとともに計画期間を延長しており、第 6 次長期総合計画においても、地方版総合戦略として人口減少克服・地方創生という目的を明確にし、数値目標や重要業績評価指標（KPI）を設定するなど、必要な内容を備えて、統合する形で一体的に策定を行います。

3) 情報化・デジタル化の進展

ICT 技術の飛躍的な進歩と機器の多様化が進み、インターネットやスマートフォンの普及、ソーシャルメディアの利用拡大などにより、市民生活や行政サービスは大きく変化するとともに、コミュニケーションの多様化が進行しています。

国を中心として、IoT（Internet of Things）の先端技術や人工知能（AI）、自動運転等の技術により、都市・地域の課題を解決する先進的な取組が推進されています。社会的な課題解決や生産性向上に向けて、これら新たな技術を積極的に取り入れていくことが求められています。

また、これまでの情報化・ICT 利活用は、既に確立された産業を前提に、あくまでもその産業の効率化や価値の向上を実現するものでしたが、最近、ICT が産業と一体化することでビジネスモデル自体を変革していくデジタル・トランスフォーメーション（DX）が注目されています。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、新しいコミュニケーションなどのツールやシステムが進展し、テレワークやリモート化などデジタルシフトが加速しています。

4) 地球環境問題の深刻化

地球環境の悪化をもたらす温室効果ガスや環境汚染物質の増加に加え、特に近年、世界中で温暖化の影響と考えられる異常気象などの自然災害が多発しており、生物多様性の減退や水資源の枯渇化なども含め、地球規模の環境問題の深刻化は世界共通の課題となっています。

化石燃料エネルギーへの依存が地球温暖化の主な原因とされていますが、エネルギー自給率が低い日本でも再生可能エネルギーなどの他のエネルギーへの転換が急務となっています。

現在日本においても、環境負荷の軽減を目的とした取組や製品が普及し、環境問題への意識が高まっており、低炭素社会や循環型社会の形成、自然環境の保全・再生に向けた活動などの取組が進められています。

5) SDGs (持続可能な開発目標) の取組推進

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標 (ゴール)・169のターゲットから構成されています。

日本政府は、2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制を整え、同年12月、今後の日本の取組の指針となる「SDGs実施指針」を決定しました。

現在、日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えており、地方自治体におけるSDGs達成へ向けた取組は、地域課題の解決に資するものであり、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されていることから、本計画においてもこれら17の目標を踏まえて、計画を推進していきます。

図13 SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴール



5 まちづくりに関する市民・事業者の意見集約の取組

1) 長期総合計画審議会

審議会では、市長の諮問に応じ長期総合計画に関する重要事項の調査審議を行っています。

回	開催日	審議内容等
第1回	R1.11.21	諮問、策定方針、市民・企業アンケート
第2回	R1.12.26	基本構想策定の流れ、第5次長期総合計画の総括等
第3回	R2.2.12	今後の塩竈の方向性等に関する意見交換（グループワーク）
第4回	R2.8.31	基本構想骨子案

※第3回目の概要は26ページ

2) 市民まちづくりワークショップ

市民の方々が暮らしやすいまちについて、「未来の100の暮らし」を考える全6回のワークショップを開催しています。

回	開催日	テーマ	回	開催日	テーマ
第1回	R2.10.24	住環境	第4回	R3.1.14	福祉
第2回	R2.11.26	子育て・教育	第5回	R3.1.28	歴史・文化
第3回	R2.12.17	食・産業	第6回	R3.3.18	編集会議

※概要は28ページ

3) 地区別懇談会

市民の皆さんから幅広く意見を伺い、計画づくりに反映させるため、東・西・南・北・浦戸の各地区において懇談会を開催しました。

地区	開催日	主なご意見
東部	R2.2.20	<ul style="list-style-type: none"> 地域の担い手が高齢化しており、若者の定住は必須である。 シニア世代がさらに活躍できる社会にするべき。 地域資源がたくさんある。それらをつなげる必要がある。
西部	R2.2.14	<ul style="list-style-type: none"> バスの運行について、鉄道と時間を合わせるなど、利便性の向上に努めていくべき。 子どもたちの学習環境の充実を図ってほしい。
南部	R2.2.22	<ul style="list-style-type: none"> 塩竈は水産の町であることを再認識する必要がある。 中心部の賑わいが無くなった。活性化が必要である。
北部	R2.7.4	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が働ける環境をつくる必要がある 中心部を活性化して、市全体を盛り上げていく勢いが欲しい。
浦戸	R1.11.11、11.20 R2.7.9、7.17	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が働きやすく、定住しやすい環境整備をバックアップしてほしい。 島民だけではなく、来訪者の意見も聞いて島づくりに生かしてほしい。 浦戸の良さをもっと発信してほしい。

4) 高校生との意見交換会

若い世代の意見を伺い、計画づくりに反映させるため、塩釜高校の生徒の皆さんと意見交換を実施しました。

生徒会やダンス部、音楽部、サッカー部などに所属する生徒の皆さんから、身近な課題や高校生としてのまちづくりへの関わり方などについて意見をいただきました。

開催日および	令和元年 11 月 8 日 (18 名)
参加者数	令和 2 年 7 月 20 日 (17 名)

5) 市民アンケート調査

「第 6 次長期総合計画」を策定するにあたり、市民の皆さまのまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年 7 月にアンケート調査を実施しました。

調査対象	18 歳以上の市民を対象に、無作為抽出した 2,000 人 (年代別同数)
配布数	2,000 票
調査方法	郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収
回収状況	628 票 (31.4%)

※概要は 29 ページ

6) 企業アンケート調査

「第 6 次長期総合計画」を策定するにあたり、企業の皆さまの現状やまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年 7 月にアンケート調査を実施しました。

調査対象	商工会議所に加入している事業所のうち、6 名以上の従業員が在籍する市内事業所 315 社を抽出。
配布数	315 票
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	148 票 (47.0%)

※概要は 32 ページ

7) 事業者ヒアリング

第 6 次長期総合計画の策定にあたり、事業者からの意見反映の取組の一つとして、ふるさと納税の御礼品提供事業者を訪問し、新型コロナウイルス感染症の影響を含む課題や事業者の視点からの将来のまちづくりについての考えを伺いました。

実施期間	令和 2 年 9 月 9 日～10 月 8 日
ヒアリング事業者数	32 社 (水産加工業、浅海養殖漁業、小売業等)
ヒアリング項目	今後のまちづくりについて、新型コロナウイルス感染症の影響について など

※概要は 33 ページ

6 まちづくりの課題

1) 人口減少・超高齢社会進展への対応

わが国の人口は平成20年を境に人口減少局面に入りましたが、本市の人口は国に先行して平成7年をピークに減少に転じています。高齢化率がすでに全国平均を上回り、今後ますます高まっていく本市においては、年少人口（0～14歳人口）と生産年齢人口（15～64歳人口）の比率の低下による人口構造の変化が顕著であり、若い世代の流出抑制と流入促進に向けて、子育て環境の充実や教育の質の向上に重点的に取り組む必要があります。（P9図7図8、P10図9図10）

そして、担い手不足による地域活力の低下やまちづくり活動の停滞を防ぎ、多様なつながりによって、安心して子どもを生み育て、高齢になっても地域で暮らし続けられるよう、様々な世代が、地域社会で役割を担い、いつまでも健康でいきいきとした生活を送れる多世代共生社会の構築が求められています。

2) 暮らしの豊かさや幸せを実感できるまちの魅力度の向上

人口減少・超高齢社会の進展により、社会は「成長」から「成熟」の時代へと大きな転換期を迎え、住みやすさに加えて、暮らしや働き方、社会とのつながりなどにおいて、多様な豊かさを生み出し、満足度を向上させるまちづくりが求められています。まちづくりに関する「市民アンケート」において、住みやすいとは思わないと回答した割合は41%でした。暮らしの豊かさや幸せを実感できるよう、まちの魅力度を向上させるには、まずは市民が「住みつけたいくなる」まちづくりを目指すことが重要となっています。

3) 地域の個性を十分に活用した産業振興

「成熟」の時代にあっては、産業振興においてもこれまでの発想や仕組みからの転換を図り、本市が培ってきた個性を生かし、関係性を拡大して大きな効果や新たな価値を生み出すことが求められます。そのためには、水産業・水産加工業をはじめとした各産業の個性や多様な資源を有機的につなげ、地域一体となったイノベーションの創出を図る必要があります。

また、「企業アンケート」でみられた深刻な人材不足に対応するため、若者・女性・高齢者・外国人が活躍できる雇用環境を整備する必要があります。

4) 新たな危機への対応

新型コロナウイルス感染症は、市民生活や地域経済に深刻な影響を与え、「新しい生活様式」の実践など我々の日常生活を一変させました。感染症対策はもとより、想像もできないような新たな危機に直面した場合においても、市民の命とくらしを守るため、柔軟に対応できる持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

7 まちづくりの視点

調和のとれた持続可能な社会の実現

本市のまちづくりにおける課題の解決を図るには、人口の分布や推移、まち並みの形成などの本市のまちづくりの歴史的な背景を重視しつつ、新たな発想や価値観の転換により、豊かな暮らしにつながる、経済、社会、環境の調和、仕事と生活の調和、人や自然、歴史・文化の調和を志向することが必要です。

豊かな暮らしの価値観について、市民や地域が自ら考え、判断し、主体となって実現に取り組むことで、自立し、個性が豊かで調和のとれた持続可能なまちを創造します。

8 まちづくりの手法

1) 多様な担い手による協働・共創のまちづくりの推進

ライフスタイルや価値観の多様化が進み、地域社会のニーズも高度化、複雑化しています。課題解決の可能性を高め、まちづくりの視点に掲げる「調和のとれた持続可能な社会」の実現を図るため、行政が担うべき分野はしっかりと役割を果たしつつ、市民や民間事業者などの活躍が期待できる分野については、行政のみならず多様な主体がそれぞれの役割を発揮し、つながりを深めながら「協働・共創によるまちづくり」を進めます。

2) 社会情勢の変化にも柔軟に対応できるまちづくりの推進

「調和のとれた持続可能な社会」の実現に向けて、未来を切り開く人材の育成や近隣自治体との広域連携での地域課題の解決、近未来技術の積極的な活用を推進し、社会情勢の急速な変化や様々な危機に直面した場合にも柔軟に対応できるまちづくりを進めます。

Ⅱ 基本構想

1 計画期間

基本構想の計画期間は、令和4年度（2022年度）を初年度として、令和13年度（2031年度）を目標年度とします。

2 目指す都市像

計画期間における本市の目指す都市像は、以下のとおりとします。

都市像キーワード
「食の都」、「多彩な魅力」、「海」
「未来へつなぐ」、「港町」
・・・

3 まちづくりの基本理念

目指す都市像を実現するため、次のとおり基本理念を定め、まちづくりに取り組みます。

**今ある個性を大切にし、みんなでつなぎ合わせて、
新しい魅力を生み出し、そして創り上げていく、
未来に続くまちづくり**

4 将来人口について

将来人口については、現在、その設定に向けた人口ビジョンの策定を進めておりますことから、次回の審議会での議題とさせていただきます。

5 わたしたちが目指す10年後のまちのすがた

「目指す都市像」の実現に向けて、「まちづくりの課題」及び「市民・事業者の今後のまちづくりの意向」を踏まえて、「わたしたちが目指す10年後のまちのすがた」として8つのまちづくりの目標とその方向性を定めます。

分野1
子ども

子どもたちの笑い声があふれるまち

分野2
福祉

みんなが生き生きしているまち

分野3
生活

快適で住み続けたいと思うまち

分野4
産業

活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち

分野5
交流

何度でも訪れたいと思うまち

分野6
文化

日常に彩りがあるまち

分野7
協働

みんなが主役になれるまち

分野8
浦戸諸島

自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま

※市民ワークショップなどの意見を踏まえ、より塩竈らしい表現に今後改めていく予定です。



1) 子どもたちの笑い声があふれるまち

(分野：子ども)



一時期は子どもの数がどんどん少なくなっているって聞いていたけど、最近は少しずつ増えてきているのかな。産む前から大きくなるまで、ずっと子育てを応援してくれるまちだから、最近もまた、小さな子のいる家族が近所に引っ越して来みたい。

学校では子どもたち同士での学び合いが広がっていて、明るくて元気な子どもたちが多くなったという話も聞こえてくる。親たちも、家庭での教育に日ごろから取り組んでいるみたいで、周りに気を配れる子が多くなった。

地域の人とも子どもと関わる機会が増えていて、自分の子どもや孫のように可愛がっているから、まちのあちこちで子どもたちの元気な挨拶や笑い声があふれるようになった。こういう環境が続くことで、ふるさとを大切に思う大人が増えていくんだろうなあ。

まちづくりの方向性

～切れ目のない子育て支援と安心して学べる教育環境づくり～

施策の柱

- ① 妊娠期から子育て期に渡る切れ目のない支援体制の構築
- ② 未来を担う子どもを育むための学習環境や家庭教育の充実
- ③ 世代間交流を推進し、地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

1 貧困をなくそう



2 貧困をゼロに



4 質の高い教育をみんなに





2) みんなが生き生きしているまち

(分野：福祉)



40年勤めた会社を退職して10年。仕事をしている時より忙しくて楽しくなるなんて思いませんでした。ご近所さんとのウォーキングは習慣になっていて、趣味のサークル活動やアルバイトに孫のお世話、毎日が充実しています。同じ趣味を持つ新しい友達も増えたり、いろいろ頼りにされるのはとっても嬉しい。仲間がいて、生きがいや役割があると、いつまでも元気でいられる気がする。

年も年だから、不安や悩みが無いわけではないけど、相談に乗ってくれるお医者さんや保健師さんはいるし、このまちでずっと健康で、いきいき楽しく暮らしていきたいと思う。

まちづくりの方向性

～健康で安心して暮らせる地域づくり～

施策の柱

- ① 高齢者や障がいのある方など、誰もが安心して暮らせる支援体制の充実
- ② 健康寿命の延伸による元気の創出
- ③ 安心できる地域医療体制の充実

1 貧困をなくそう



2 健康をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を





3) 快適で住み続けたいと思うまち

(分野：生活)



塩竈って本当に住みやすいまちだと思う。自然もたくさんあって、コンパクトでまちなかにはいろんな施設があるし、快適に過ごすことができている。電車とバスの乗り継ぎもスムーズで、住んでいる人だけじゃなくて観光で来る友達を案内するのもにも便利。車を運転しなくなった父も不自由なく出かけられるし、事故や事件の話もあまり聞かなくなったから、みんなが安心して暮らせるまちになってきた。

東日本大震災からもう 20 年だけど、町内の皆さんの防災意識はますます高まっているし、どんな災害があってもみんなで力を合わせて乗り越えていけるっていう安心感も芽生えてきた。これからも大好きな塩竈の風景を未来につなげていくために、自分にできることを進んでやっていこうと思う。

まちづくりの方向性

～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

施策の柱

- ①災害に対するレジリエンス（しなやかな強さ）を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり
- ②機能が集積し、生活サービスが充実した、コンパクトで便利なまちの形成
- ③豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成





4) 活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち

(分野：産業)



塩竈には、誇りをもって働いている人がたくさんいる。いろんな人たちがお互いに協力しあったり競い合ったりして、まちにも活気があふれている。自慢の豊かな食文化にもますます磨きがかかって、「みやぎの台所」って自信を持って言えるまちになってきた。私もそんなまちを支える一人だって思うと、とても誇らしい。

最近では、まちのあちらこちらに若い人たちの新しい店ができて、賑わいも増えてきた。そういう人たちがチャレンジできるまちはとても素敵だと思う。

うちの子どもも「いつかお父さんとお母さんのお店を継ぐんだ。」なんて言って、本当に頼もしくなってきた。

まちづくりの方向性

～活かに満ちた産業づくり～

施策の柱

- ①数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造
- ②創業・事業承継への支援の充実による地域活力の向上
- ③活力づくりに向けた新たな産業の創出や若者が満足できる雇用の場の創出

8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



12 つくる責任
つかう責任





5) 何度でも訪れたいと思うまち

(分野：交流)



※イラストはイメージです

塩竈は、コンパクトだけど一日たっぷり過ごしても時間が足りなくなる不思議なまち。「塩竈を案内して」と言われると、見せたい場所がたくさんあっていつも迷ってしまう。鹽竈神社やベイエリア、仲卸市場に浦戸諸島、美味しいお寿司とお酒……。魅力は観光スポットや食べ物だけじゃなく、充実したおもてなしもその一つ。

自信を持って「また来なよ！」って言えるまちだと思う。

この前遊びに来た県外の友達もすごく満足して帰っていったし、今度来たら、また別な塩竈を見せてあげようかな。

まちづくりの方向性

～観光交流による賑わいづくり～

施策の柱

- ① 門前町やウォーターフロントなど、地域資源を最大限活用した観光メニューの創造
- ② 戦略的なプロモーション活動による交流や移住に対する新たなニーズの発掘
- ③ まち全体が一体となったおもてなし体制の充実・広域連携

8 働きがいも
経済成長も



12 つくる責任
つかう責任





わたしたちが目指す10年後のまちのすがた

6) 日常に彩りがあるまち

(分野：文化)



塩竈は絵になるまち。歴史ある建物やまち並みが、みんなの手で大切にされているし、きれいな海とたくさんの緑がある。

小学生の時、美術館で観た絵に感動して、絵が大好きになった。それから、塩竈の何気ない風景をたくさん描いている。このまちのいろんな一面を見て、あらためて塩竈はいくつもの物語が重なり合って築かれたまちなんだと実感している。

最近では、芸術やスポーツなどいろんな分野で活躍する人たちも増えてきて、ますます誇らしいまちになったし、私もその文化を引き継いでいく一人になりたいと思う。そしてそんな塩竈を未来につないでいきたい。

まちづくりの方向性

～生涯にわたって学びあえる風土づくり～

施策の柱

- ①豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実
- ②生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開
- ③芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

4 質の高い教育を
みんなに





7) みんなが主役になれるまち

(分野：協働)



最近では、まちづくりに関わる人が前よりも増えてきたように感じる。

休日に駅前の花壇に花を植えてくれる近所の人たちや外国人の方に日本語を教えているボランティアの人たち。まち歩き調査をする大学生や公園の清掃に取り組んでいる企業の人たち。

塩竈に住む人、働いている人、関わりのある人たちが、持っている力を発揮しながら手を取り合ってまちづくりを進めている。

文化や価値観の違いも認め合い、お互いが協力し合うことで魅力的なまちになっていく。だからこそ、一人ひとりがまちの主役で、「人」を大切にすることのまちを、みんなでもっと良くしていきたい。

まちづくりの方向性

～様々な個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～

施策の柱

- ①大学や企業等との交流・連携・共創、多文化共生に対する理解促進
- ②塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実
- ③効果的・効率的で透明性の高い行政経営

5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





8) 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま

(分野：浦戸諸島)



浦戸に住むのは決して便利ではないけれど、「島じかん」なんて呼ばれるくらい、ゆったりと心穏やかに生活できるから、とても贅沢なことだと思っている。

そんな癒しを求めて、浦戸には色々な人が訪れる。仕事をする人、遊びに来る人、そして新しく住み始める人。たくさん人が来ると、浦戸らしさがなくなって嫌だなんて思ったこともあったけど、みんなが島の自然や生活を大切にしてくれているからほっとしている。

そういえば、この前友達に浦戸でとれたものを送ったら、「こんな美味しいものありがとう！」って言ってすごく喜んでくれた。当たり前と思っていたものが、実は大きな魅力になっているなんて・・・そんな浦戸暮らしを誇らしく思っている。

まちづくりの方向性

～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～

施策の柱

- ①健康で安心して住み続けられる生活環境の充実
- ②浦戸産品（海産物・農産物）の高付加価値化や担い手育成による産業の振興
- ③浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



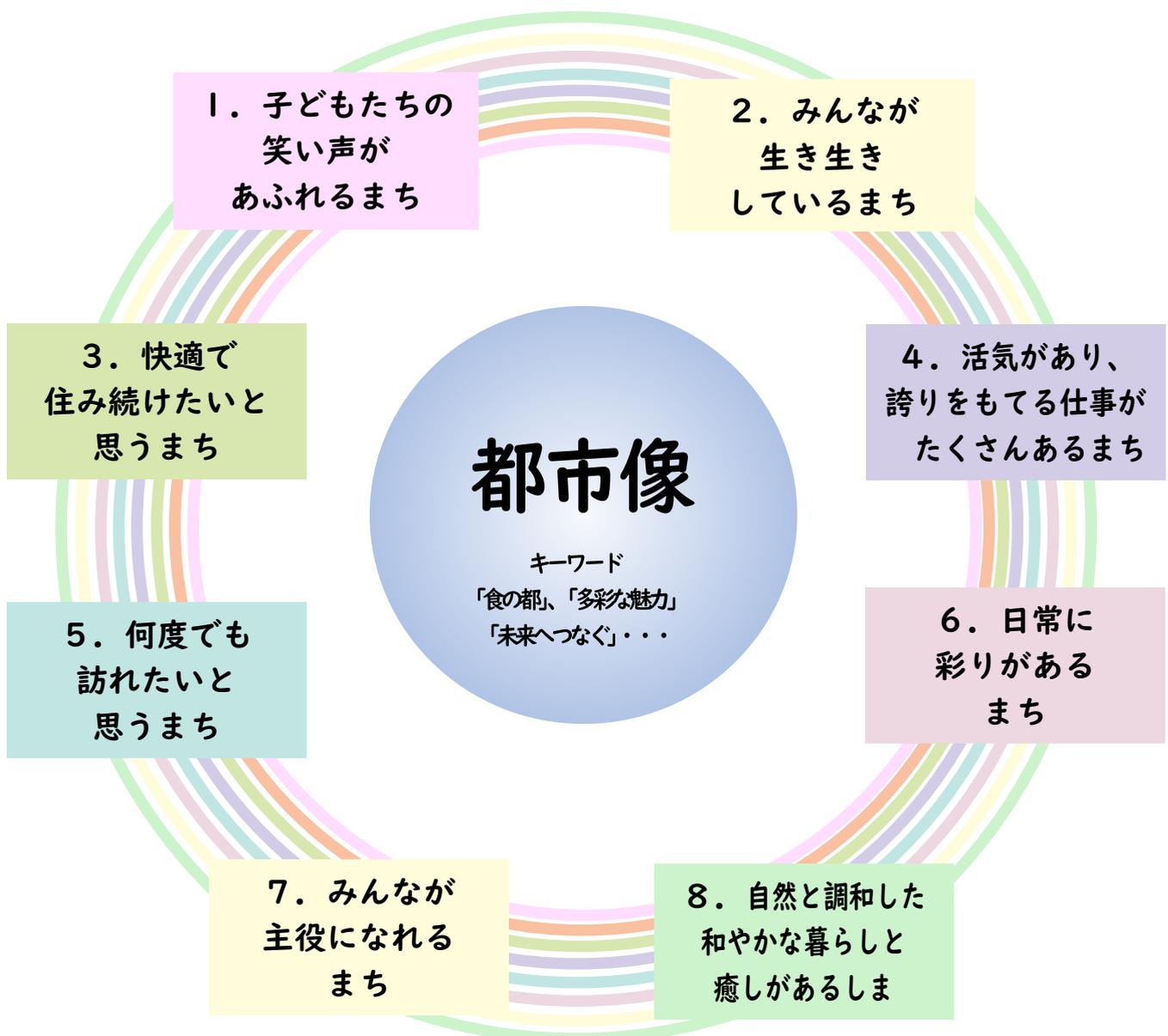
14 海の豊かさを守ろう



6 「都市像」の実現に向けて

今後の市政運営にあたっては、まちづくりの基本理念に基づいて、分野ごとの取組にとどまらず、それぞれをつなぎ合わせた横断的な施策展開が一層求められます。このことにより、産業の活性化、雇用創出、交流拡大、健康増進など、新たな価値が創出され、まちづくりに様々な相乗効果を発揮することが期待できます。

市民や事業者の皆さまのほか、塩竈と関係する皆さまと行政が一体となって、それぞれの「目指すまちのすがた」をつなげて、共に創り上げていくことで、「都市像」の実現を目指します。



Ⅲ 資料編

Ⅰ 今後のまちづくりに向けた市民・事業者の意向

Ⅰ) 長期総合計画審議会

第3回長期総合計画審議会において今後のまちづくり等について意見をいただき、それらの意見を以下のとおり「塩竈の個性や大切にしたいもの」、「今後のまちづくりの方向性」として整理しました。

(1) 塩竈の個性や大切にしたいもの

個性1：食文化	<ul style="list-style-type: none">・魚、かまぼこ、塩、海苔、牡蠣、寿司・寿司、酒・酒蔵、地元の飲食店
個性2：社・歴史	<ul style="list-style-type: none">・奥州一ノ宮鹽竈神社・門前町、和洋折衷等の古い建造物
個性3：港町・浦戸	<ul style="list-style-type: none">・海、港湾や漁港、市場・浦戸諸島の自然環境
個性4：コンパクト・交通	<ul style="list-style-type: none">・坂が多いが、歩いて暮らせるコンパクトシティ・100円バス等による公共交通のネットワーク
個性5：人・風景	<ul style="list-style-type: none">・人と人とのつながり・神社や門前町、浦戸諸島、水揚げ

(2) 今後のまちづくりの方向性

1 子育て	<ul style="list-style-type: none">・切れ目のない子育て支援・安心して預けられる保育環境の整備
2 教育	<ul style="list-style-type: none">・地域資源を生かした教育・学校教育と社会教育の連携、地域間や海外交流の充実
3 若者	<ul style="list-style-type: none">・若者が戻ってきたいと思う環境整備、雇用の確保・若者が中心となったまちの魅力向上
4 福祉	<ul style="list-style-type: none">・地域の見守りや支え合いの充実・高齢者や障がい者の雇用の確保、健康産業の誘致
5 医療	<ul style="list-style-type: none">・広域化の視点も含めた市立病院の在り方・市立病院の経営健全化
6 浦戸	<ul style="list-style-type: none">・浦戸を「県民の島」に・ステイステーションなどの有効活用・テレワーク環境の整備
7 住環境	<ul style="list-style-type: none">・安全安心な道路整備、空き家の有効活用・歩きたくなるまち、公園の整備
8 コンパクトシティ	<ul style="list-style-type: none">・コンパクトシティや坂を生かす、統一した景観づくり・公共交通の充実、庁舎の分散解消
9 産業	<ul style="list-style-type: none">・産業の柱・拠点づくり・魚市場と仲卸市場の連携、食育の産業化、企業との連携
10 観光	<ul style="list-style-type: none">・若者向けの観光コンテンツの開発・ウォーターフロントの活用、神社から門前町への回遊性の構築

2) 市民まちづくりワークショップ

市民の方々が暮らしやすいまちについて、「未来の100の暮らし」を考える全6回のワークショップを開催します。

回	開催日	テーマ
第1回	R2.10.24	住環境
第2回	R2.11.26	子育て・教育
第3回	R2.12.17	食・産業

回	開催日	テーマ
第4回	R3.1.14	福祉
第5回	R3.1.28	歴史・文化
第6回	R3.3.18	編集会議

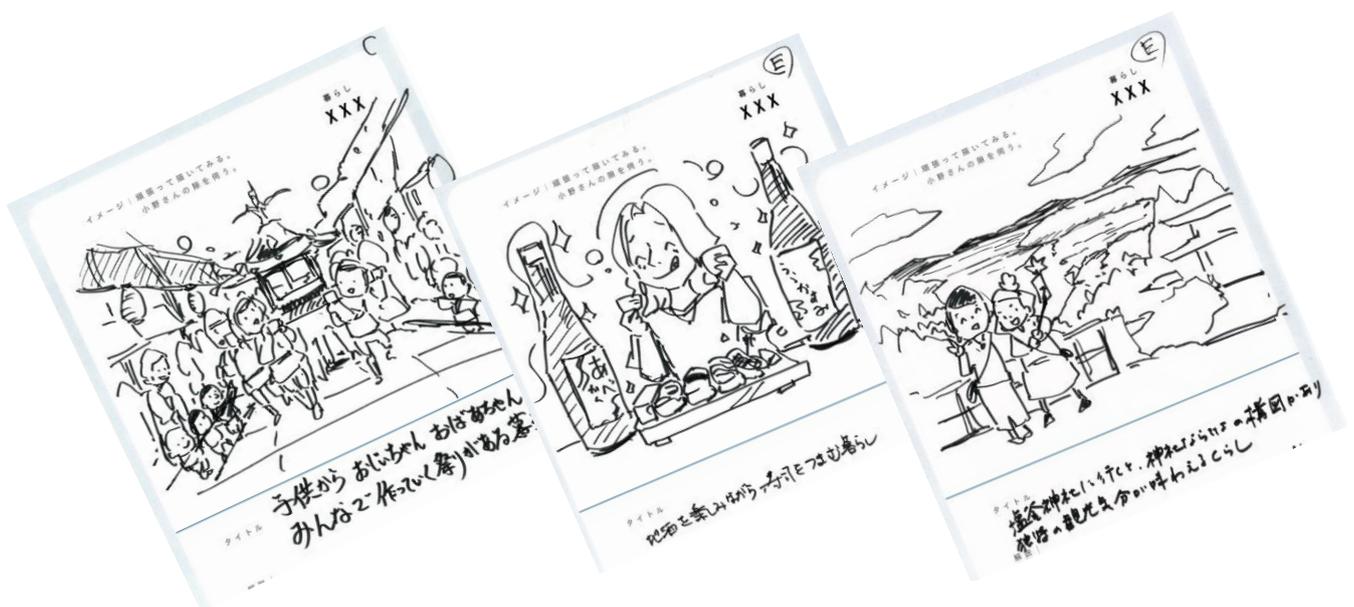
申込者数：35名

(1) 第1回ワークショップの様子

第1回目では、22名の参加者が「住環境 塩竈の好き・嫌い」をテーマにグループに分かれて話し合い、「塩竈での未来の暮らし」を提案していただきました。



参加された方々から様々な「未来の暮らし」を提案いただきました。また、イラストレーターの方が「未来の暮らし」のイラストをその場で描き、「暮らしのカード」を作成しました。



作成した「暮らしのカード」の一例

3) 市民アンケート結果の概要

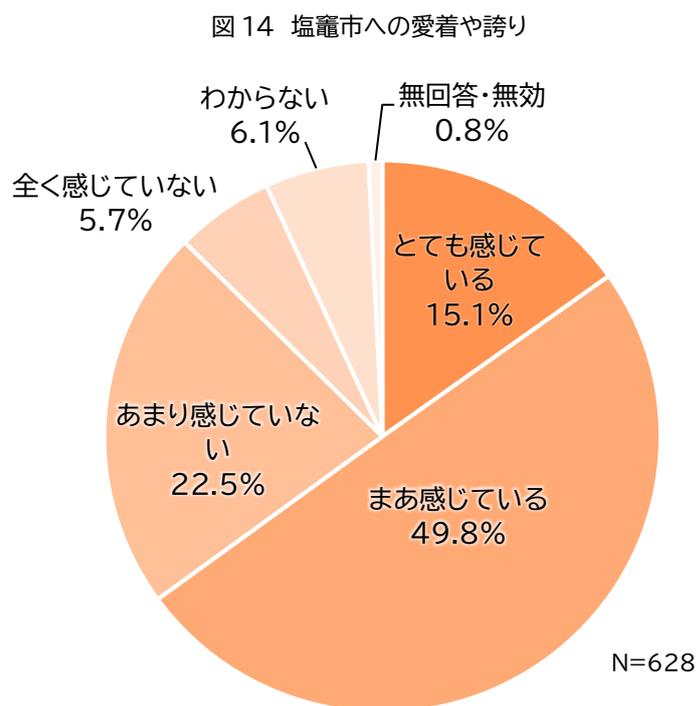
「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、市民の皆様のまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

調査対象	18歳以上の市民を対象に、無作為抽出した2,000人（年代別同数）
配布数	2,000票
調査方法	郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収
回収状況	628票（31.4%）

(1) 塩竈市への愛着や誇りについて

塩竈市への愛着や誇りについて、「まあ感じている」が49.8%と最も多く、次いで「あまり感じていない」が22.5%、「とても感じている」が15.1%となっています。

「とても感じている」と「まあ感じている」を合わせると64.9%が塩竈市への愛着や誇りを感じています。



(2) 住みやすさについて

- 「とても住みやすい」と「住みやすい」を合わせると 52.4%となっており、その理由は「バス・鉄道等の交通の便が良いから」が最も多く、次いで「居住環境が良いから」、「歴史のあるまちだから」となっています。
- 「あまり住みやすいとは思わない」と「住みにくい」を合わせると 41.0%となっており、その理由は「娯楽・遊戯施設が少ない」が最も多く、次いで「買い物するのに不便」、「公共料金が高い」、「バス・鉄道等の交通の便が良くない」となっています。

図 15 住みやすさ

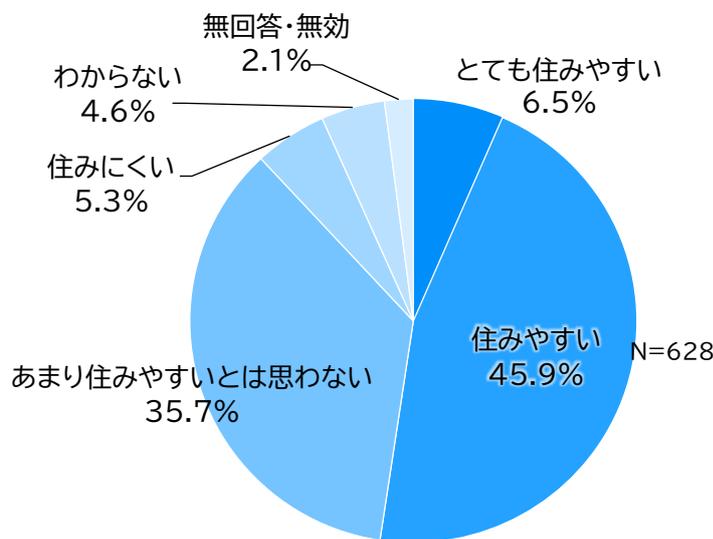


図 16 住みやすいと思う主な理由(TOP5)

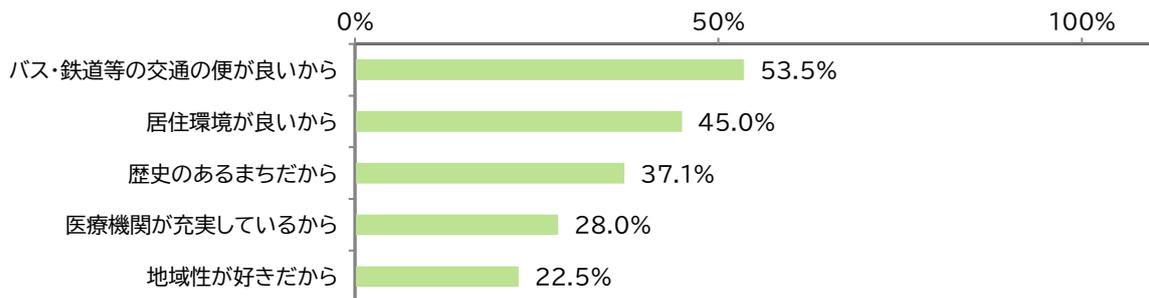
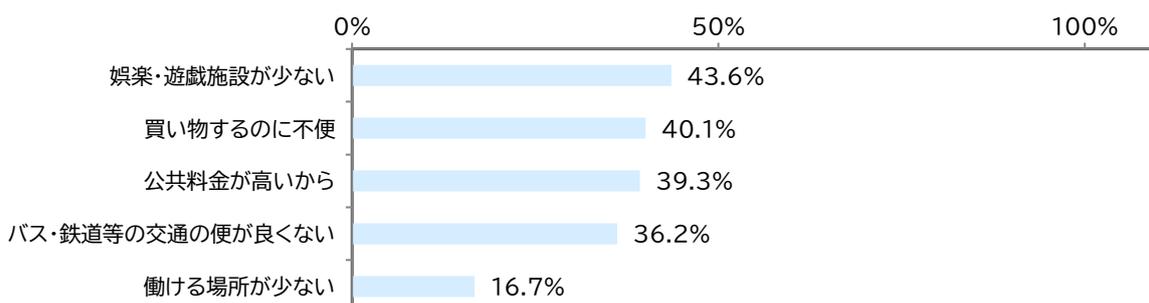


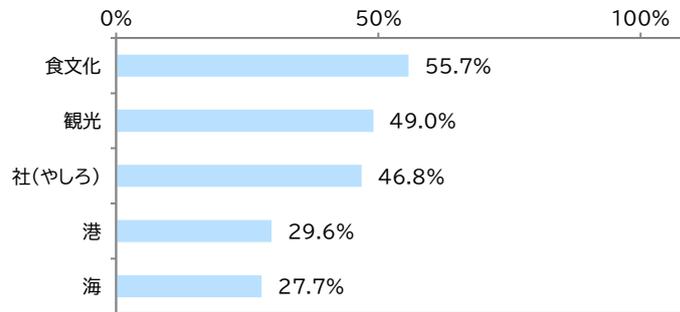
図 17 住みやすいと思わない主な理由(TOP5)



(3) まちづくりキーワード

「食文化」が55.7%と最も多く、次いで「観光」が49.0%、「社」が46.8%となっています。

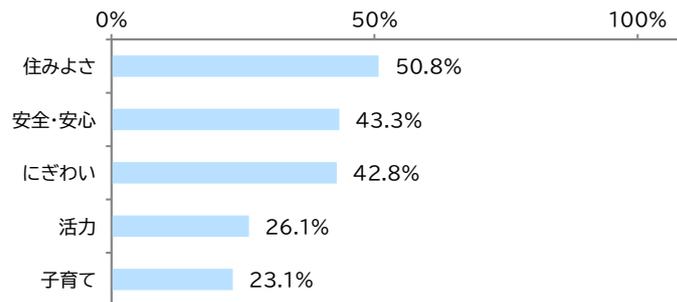
図18 まちづくりのキーワード(地域資源TOP5)



(4) まちづくりのテーマ

「住みよさ」が最も多く50.8%となっており、次いで「安全・安心」が43.3%、「にぎわい」が42.8%となっています。

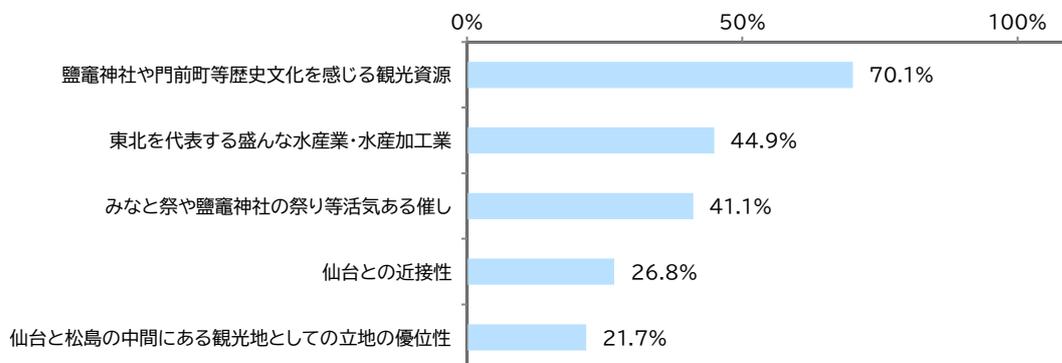
図19 まちづくりのテーマ(TOP5)



(5) 塩竈の魅力

塩竈の魅力は、「鹽竈神社や門前町等歴史文化を感じる観光資源」が70.1%と最も多く、次いで「東北を代表する盛んな水産業・水産加工業」が44.9%となっています。

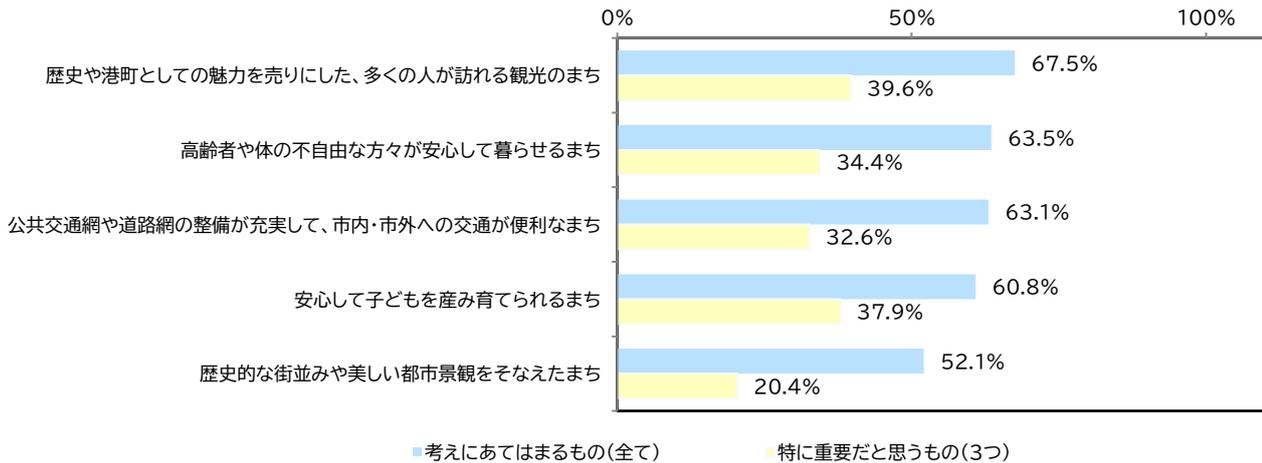
図20 塩竈の魅力(TOP5)



(6) 目指すまちの将来像

目指すまちの将来像は「歴史や港町としての魅力を売りにした、多くの人を訪れる観光のまち」が67.5%と最も多く、次いで「高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせるまち」が63.5%、「市内・市外への交通が便利なまち」が63.1%「安心して子供を産み育てられるまち」が60.8%となっており、いずれも6割を超えています。

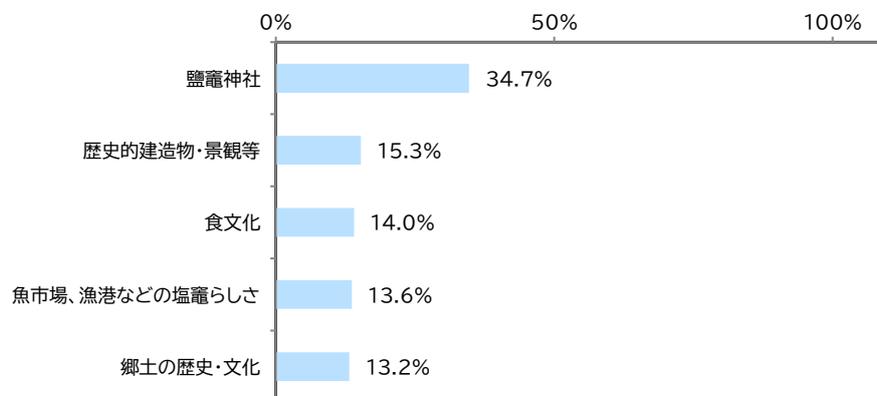
図 21 目指すまちの将来像(TOP5)



(7) 未来に残していきたい塩竈らしさ

未来に残していきたい塩竈らしさは、「鹽竈神社」が34.7%と最も多く、次いで「歴史的建造物・景観等」、「食文化」の順になっています。

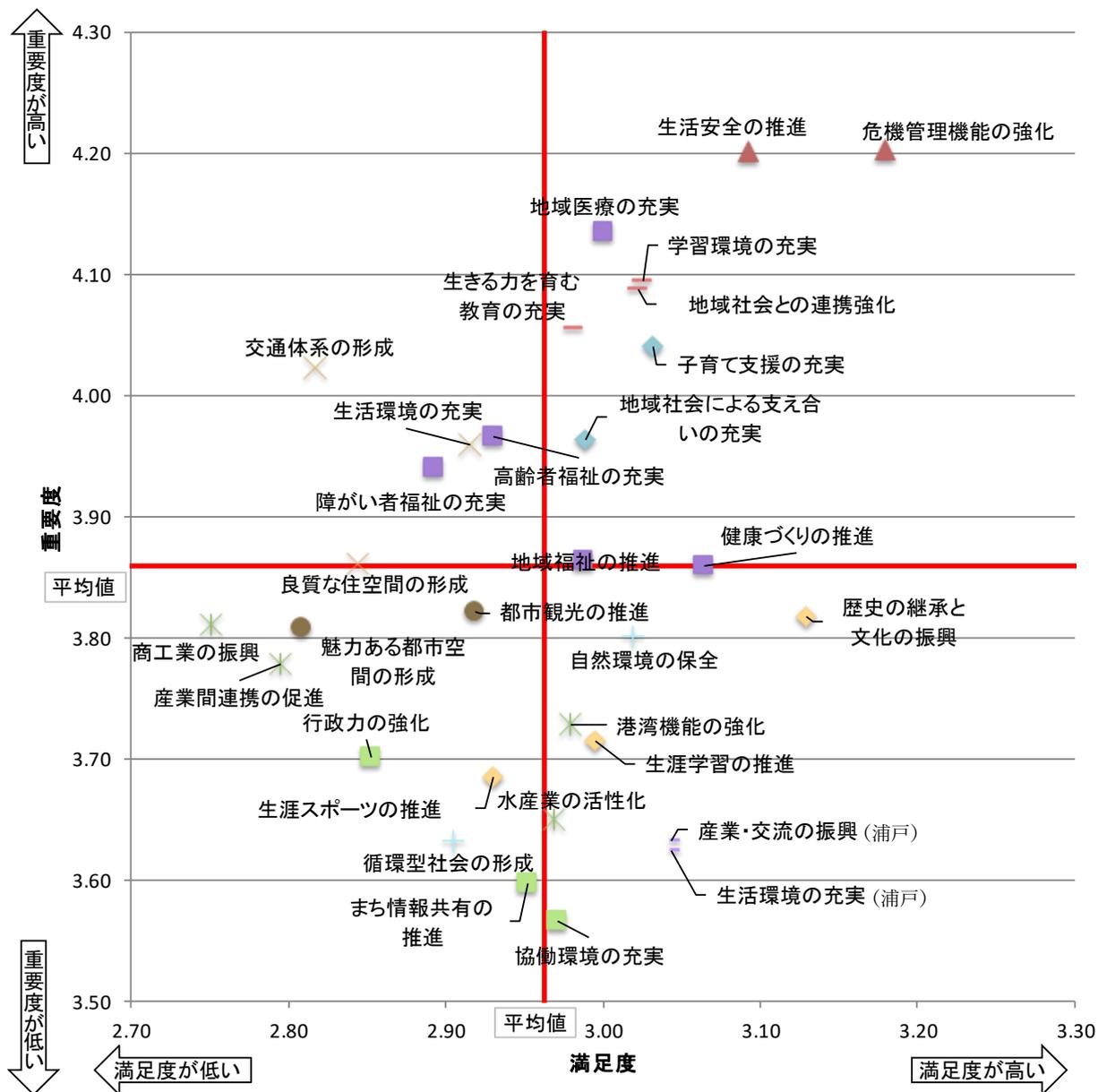
図 22 未来に残していきたい塩竈らしさ(TOP5)



(8) 施策ごとの満足度と重要度

- これまでの市の取組を「満足～不満である」、「重要～重要でない」の5段階でそれぞれ回答いただき、その結果を満足度×重要度マトリクスで評価・分析したものです。
- 重要度は高いが満足度が低い項目は、「交通体系の形成」、「生活環境の充実」、「高齢者福祉の充実」、「障がい者福祉の充実」、「良質な住空間の形成」であり、早期に解決すべき課題となっています。

図 23 施策ごとの満足度と重要度



4) 企業アンケート結果の概要

「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、企業の皆さまの現状やまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

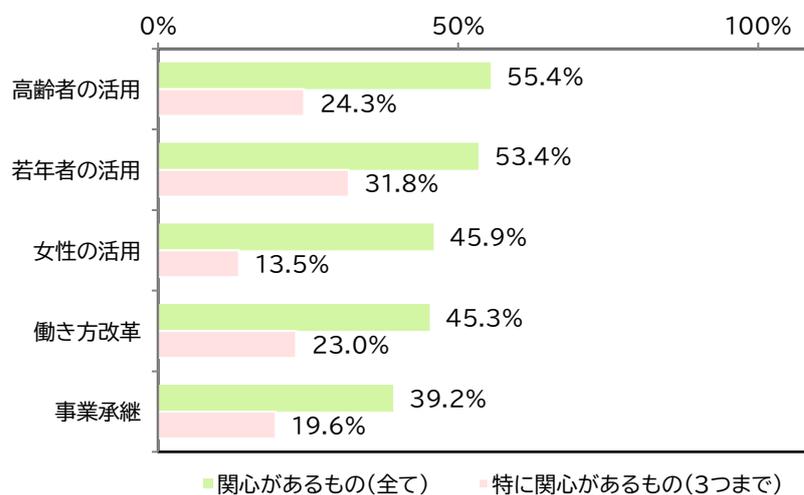
調査対象	商工会議所に加入している事業所のうち、6名以上の従業員が在籍する市内事業所 315社を抽出。
配布数	315票
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	148票 (47.0%)

(1) 今後の企業活動において関心のある項目

地域経済の活性化として、今後の企業活動において関心のある項目は、「高齢者の活用」が最も多く、次いで「若年者の活用」、「女性の活用」となっています。

特に関心のある項目は、「若年者の活用」が最も多く、次いで「高齢者の活用」、「働き方改革」となっています。

図 24 今後の企業活動において関心のある項目(TOP5)

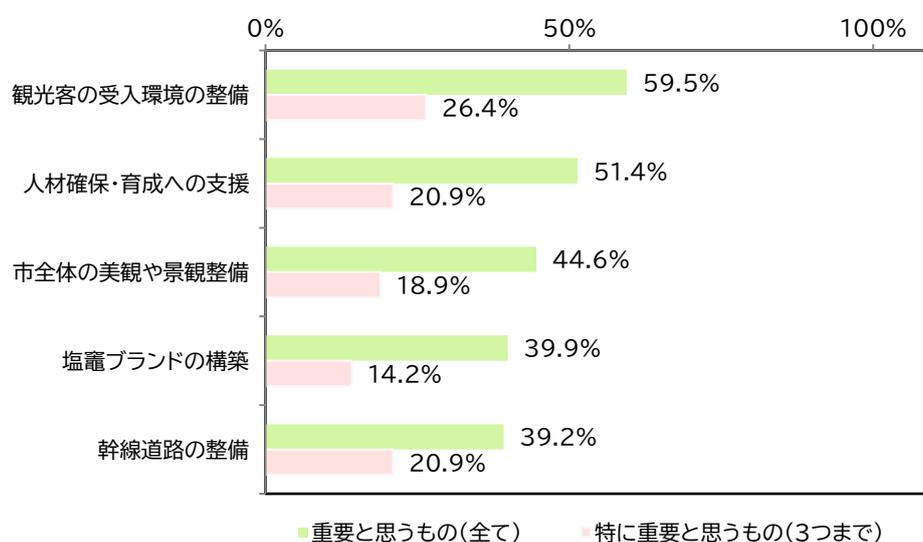


(2) 行政が取り組むべき分野

産業振興による本市の地方創生を図るうえで、行政の取組で重要だと思う分野は、「観光客（外国人旅行者含む）の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「市全体の美観や景観整備」となっています。

特に重要だと思う分野は、「観光客（外国人旅行者含む）の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「幹線道路の整備」となっています。

図 25 行政が取り組むべき分野(TOP5)



5) 事業者ヒアリング

第6次長期総合計画の策定にあたり、事業者からの意見反映の取組の一つとして、ふるさと納税の御礼品提供事業者を訪問し、新型コロナウイルス感染症の影響を含む課題や事業者の視点からの将来のまちづくりについての考えを伺いました。

実施期間	令和2年9月9日～10月8日
ヒアリング事業者数	32社（水産加工業、浅海養殖漁業、小売業等）
ヒアリング項目	今後のまちづくりについて、新型コロナウイルス感染症の影響について など

【ヒアリング結果の概要】

(1) 事業者が抱える課題

- ① 人材不足（特に若い世代の不足）
- ② 原材料の不足とそれに伴う原材料の高騰（水産加工業）
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響による売上および交流人口の大幅な減少、通販シフトなど販売方法の多様化への対応
- ④ 少人数旅行者の増加を見込んだ観光客の回遊性の確保

(2) 消費者ニーズの的確な把握と自社の商品に対する深いこだわり

- ① 原材料の厳選や手造りや無添加食品の製造など健康意識の高まり
- ② 伝統的な製造方法の継承や消費者の視点に立った商品開発
- ③ 高価格とはなるが、とにかく良いものを製造販売する意識の広がり

(3) 事業者間での共通点

- ① 特に若い経営者の方々は、販売や製造において同業や他業種とのつながりを求めている。
- ② 市民にもっと自社の商品を知ってもらいたいという思いが強い。
- ③ 塩竈は「商品の高付加価値化につながる場」という認識を持っている。

2 本市が抱える重点課題の解決に向けた取組

1) 重点課題について

現在本市では、産業や浦戸の再生に向けた取組、本庁舎や教育施設をはじめとした公共施設の今後のあり方など、財政状況が厳しさを増す中、早期に解決しなければならない7つの重点課題への対応に向けた検討を進めています。

重点課題検討本部および検討部会を設置し、令和2年度中に課題解決に向けた方向性を取りまとめることとし、長期的な対応を要するものについては、その方向性について第6次長期総合計画へも反映させるものです。

2) 重点課題ごとの検討内容について

部会名	検討内容
① 庁舎整備検討部会	新庁舎整備について
② 市立病院のあり方検討部会	地域医療における市立病院の今後のあり方について
③ 学校再編検討部会	学校施設のあり方及び再編について
④ ごみ処理事業検討部会	ごみ処理の広域化および老朽化した清掃工場・埋立処分場のあり方について
⑤ 門前町再生検討部会	ハード・ソフト両面による門前町の再生策について
⑥ 産業創出再生検討部会	新しい産業の創出と水産業・水産加工業等基幹産業の再生策について
⑦ 浦戸の再生検討部会	浦戸の再生について（浦戸再生プロジェクト設立に向けた検討）